

KAIHOU

会報、快報、回報、ニュース

東京工芸大学同窓会 関西支部 会報
平成18年度号 平成18年9月発行

新・旧支部長挨拶

平成18年新年懇親会

平成18年関西支部総会

来賓 阪川芸術学部教授
金子芸術学部教授

会計報告・議案審議・新役員一覧

出席者・関西支部役員からのメッセージ

永年勤続功労表彰に想う・31期 工藤 眞

会員寄稿・趣味・お稽古の腕自慢

総会返信ハガキ通信欄よりの「メッセージ」

会費納入のお願い

東京工芸大学同窓会関西支部



こんにちは!!

本日はお出まし難い梅雨の最中に和歌山県、滋賀県等々遠方からもご参集頂き全員元気なお姿を拝見出来ましたことを本当に嬉しく思っております。

有り難うございます。

今年の総会は少し趣向を変えまして年次総会に印刷部会も併せて開催する事になりました。各関係役員の方々にはご多忙のなかで準備と折衝を、お願いして今日を迎える事が出来

ました。従いまして今日の総会には私達の同窓生であり現在、教育現場で学生を指導されて尚且つ、大学の運営並びに同窓会本部と同総会支部の接点になって円滑な交流にご腐心下さってしまして、皆様とご縁が深い阪川・金子両教授が超多忙の中をわざわざ、お越し下さいました。今日、出席出来なかった会員からも出欠葉書に両先生に「宜しくお伝え下さい」とのメッセージを沢山頂いております。

次は今年が役員改選の年です。資料の新役員候補者名に新支部長を42期の駕田毅様に引き継いで頂きたく皆様のご賛同を得たくお願い申し上げます。駕田様は当支部の総務担当副支部長として歴代の支部長を支えて来られました。1982年(昭和57年)以降の「会員名簿」は駕田様のご尽力でダイコロ(株)のご協力を得て作成してきましたが『総会報告書』も大幅に内容を拡大充実し且つ【カラー印刷】に衣替えを、お願いしましてネーミングも『KAIHOU』に改め今回の『KAIHOU』で3年、3回目になりました。私は諸先輩、現役員並びに会員各位の協力のお蔭で2期4年間、勤めさせて頂き誠に有り難うございました。この4年間には《同窓会75周年記念式典》

《工芸大学80周年記念式典》が有り丁度節目の時期でした。関西支部はご承知の通り昭和8年に創立され今年で73年目になります。今日選出予定の駕田様で11代目の支部長となられますが、大山・上田・福岡、各先輩が目指して来られました「関西支部は工学部・芸術学部短大等の卒業生が一体化して同窓会を行なう」の、ポリシーの基で駕田新支部長と新役員の新しい発想により新時代にマッチした関西支部に発展致します事を確信し、末尾となりましたが会員各位の益々のご健勝をお祈り致しましてお礼と、ご挨拶に代えさせて頂きます。



新たな決意

初秋の候、益々ご壮健のことと拝察いたします。

平素は、母校東京工芸大学の同窓会活動にご支援いただき、深く感謝申し上げます。

さて、私こと7月8日の関西支部総会で、はからずも新支部長に選出されました。

松本前支部長が人望厚く、4年間にわたって会務を円滑に運営され、各種の大事業を成し遂げられた後を受け、十分に職責を果たせませうやら不安を感じて居ります。

しかし同窓会会員諸兄弟姉のご支援とご期待を得て選ばれた以上、微力ではありますが、会務に専心努力をいたす所存で居ります。

虎穴に入らずんば虎子を得ず、

チャレンジしよう!

大任を受けるに当たってこのように決意した次第です。

皆様のご協力をお願いすると共に、大きな期待を寄せつつ就任のご挨拶とさせていただきます。

平成18年 新年懇親会

東京工芸大学同窓会関西支部 新年会 平成18年1月28日 於：大阪弥生会館



平成18年 新年懇親会風景

平成18年1月28日、25名の同窓生の出席を得て、大阪駅前にあります大阪弥生会館にて盛大に行いました。24期山本吉男先輩の乾杯の音頭で始まり、ビンゴゲームなどで大いに盛り上がりました。



平成18年 支部総会

東京工芸大学同窓会関西支部 総会 平成18年7月8日

於：アークホテル

来賓：阪川芸術学部教授（教務部長） 前列右から5番目

金子芸術学部教授 前列左から5番目



平成18年 支部総会

平成18年7月8日、関西支部恒例の総会を「アークホテル」で開催し近畿各地から30名の同窓生が参加しました。大学からは、阪川芸術部長(教務部長)、金子芸術部長のご出席を頂きました。

38期滝口議長の名司会のもと、30期松本支部長のご挨拶に始まり各役員の方の活動報告、議案審議では役員改選が行われ、支部長に42期駕田様が選ばれ、松本前支部長より工藤大阪地区長に永年勤続功労表彰がありました。引き続き、阪川芸術学部長からは『母校の近況と私のライフワーク』、大学の近況報告、金子芸術学部長からは印刷部会にて『色再現の歴史』の講演を頂きました。

その後、39期倉橋様の記念撮影があり、懇親会は31期工藤様の司会進行で、今回初参加の44期生田様の紹介の後、同じく44期生田様の乾杯の音頭で始まりました。

時間の経つのも忘れ、現役に戻ったように話しも弾み大いに盛り上がり、今回初参加の44期生田様の中締めで来年の「新年会」での再会を約して散会となりました。

(広報委員 工-16期 小林修一記)



司会 38期滝口議長



前支部長 30期松本一馬 氏



新支部長 42期駕田 毅 氏

永年勤続功労表彰 31期工藤 眞 氏





会計決算報告 40期倉橋正直 氏



広報 工-4期侯野恒雄 氏



企画(代行) 工-21期原 浩一 氏

平成18年 懇親会



司会 31期工藤 眞 氏



初参加の44期生田 勝 氏



新・旧支部長の挨拶
左 30期松本一馬氏 右 42期駕田 毅 氏



印刷部会 31期森澤嘉昭 氏



双美会 30期福岡武雄 氏

大学よりの来賓紹介 p16~p19参照



阪川芸術学部教授(教務部長)



金子芸術学部教授



44期生田様による乾杯の音頭



講演：阪川芸術学部教授(教務部長)

皆さん今日は、お呼びいただきありがとうございました。私、昭和37年に卒業いたしました阪川武志と申します。北海道生まれの東京育ちです。私の専攻は、写真化学で宮川先生の研究室に入れていただき、感光材料の現像処理の研究をいたしました。その後、カラー写真の奥沢先生に呼ばれて、写真技術科でカラー写真の研究を続けてまいりました。40数年間、多くの方にお教えできたことと思います。来年春に、定年で退職いたします。多くの方に色々なことを教えていただき、大変感謝しております。



最近の大学の状況について、受験者人口が年々万のオーダーで減っており、工芸大学も厳しい状況が続いております。また、工学部、芸術学部とも技術革新のスピードが早いメディアを扱う部分が多く、学科編成もどんどん変化してきております。大正12年、写真の専門学校として始まり、戦後になって短期大学、昭和41年から工学部、平成になりまして芸術学部ができました。芸術学部は、写真学科、映像学科、デザイン学科の三学科でスタートして、今年で14年目、来年春10回目の卒業生を出します。現在、工学部は、5学科、学生数2,000人、教員約90人、芸術学部も、5学科、学生数1,960人、教員約80人、大学院は、工学研究科160人、芸術学研究科30人で、合計約4,200人の学生を160~170人の教員が教育しているとお考えください。大変大きな大学にさせていただき感謝いたします。今日お配りした資料・袋には、ロゴマークが入っております。この形が東京工芸大学の正式なもので、これから大学から発信するものに使いますのでよろしくお願い申し上げます。工学部の5学科は、メディア画像学科、ナノ化学科、建築学科、コンピュータ応用学科、システム電子情報学科で、芸術学部の5学科は、写真学科、映像学科、デザイン学科、メディアアート表現学科、アニメーション学科です。芸術学部、学科は違っても内容に錯綜があり、どの学科を卒業すればどの仕事に就くという枠がなくなり、その中に写真も映像も飲まれました。メディアアートというくくりで、今の大学が目指しているものはそのところでございます。文科省に、漫画学科新設を申請中です。高校生への説明会で、漫画学科とアニメーション学科が大変な人気です。漫画をしっかり学問として、捕らえてやっていこうとしております。

先日、同窓会の理事・評議委員会という会合を、市ヶ谷のアルカディア(私学会館)で行いました。24期田沼会長が、先頭に立ってやっておりますが各地に支部がございまして、支部長会を9月の1、2日に開催し、支部の活動を活発にしていこうという話し合いになると思います。関西支部は、大変活発に活動しておられ、工学部、短期大学、芸術学部の卒業生が一体となって活動しておられるのはここだけで、大変大学でも注目をしてきたところです。こ

「母校の近況と私のライフワーク」

れからも活発なご活動をしていただきたいと思います。大学の教員が必要でしたらどうぞお呼びいただきたいと思います。電車で三時間程、乗って来ると到着しますので、早くまいりたいと思います。大学の芸術情報館という所に、同窓会室がございまして、今ここはまだ常駐者が置かれていませんが、皆さんお出でいただきますよう、よろしく願いいたします。



松本支部長のご要望により、私のライフワークをお話いたします。私の研究は、銀塩の感光材料の現像処理をずっとやってきました。短期大学という現実を教える学校では、理屈だけ言ってもダメで、現実の製品についての情報を流さないと授業が進まなかったのので、私は、フィルム・印画紙のテストばかりをやってまいりました。最近、環境問題を考えなければなりません。化学というのは、何か実験や物を作ると、必ず、排ガス、廃液、廃物が生じるわけで、これを何とかしなければなりません。カラーの方は環境対策が進みましたが黑白は、はっきり言って置いていかれたのでなんとかしたいと、環境にやさしい黑白感光材料の処理を色々やっている内に面白いことを発見しましたのでお伝えします。お渡ししたプリントは、今月20日発売の写真工業の原稿で、以前から気になっていた日本茶、緑茶で現像出来るかなあと思って始め、その結果を報告しております。この現像液は、すごく真っ黒なドロドロの液になり、こんなのフィルム通したくないぐらいのものですが、やればちゃんと現像できました。暇な時に試してみてください。甘味料のキシリトールでも現像出来るか、これからやってみます。

とんでもないことをお話しました、笑い話とお受け取りください。それでは、これで失礼します。ありがとうございました。

阪川武志 芸術学部教授のご略歴

1941年 札幌市生まれ
東京写真短期大学写真工業科卒
同大学、宮川先生・奥沢先生・両研究室助手
東京工芸大学写真学科教授。現在に至る
学生部長、就職センター長、写真学科主任、芸術別科長を経て現在、教務部長。
研究としては主として銀塩感光材料の現像処理、環境問題と現像処理、
社会活動としては日本写真学会理事、日本写真学会カラーラボセミナー
実行委員長、他セミナー実行委員長、「写真工業」に連載記事執筆

講演：金子芸術学部教授

ご紹介を受けました、東京工芸大学芸術学部、デザイン学科の金子でございます。本日は、お招きをいただきまして誠にありがとうございます。皆様のご職業等を拝見していると、私が今日「色再現の歴史」をお話しているのかなと感じますが、私が授業の中でやっております中身がこんなものであると、ご理解いただければありがたいと思います。昔の短大時代と違って、授業もパワーポイントで進めることも多くなりました。便利な面、便利ですが、やはり人間、書いて覚えるノートに力を入れて書くというのが脳に残るのかと思っています。コンピュータは得意ではなく、普段あまり使わないですけど授業では、このような展開でやっているとご理解いただければありがたいと思います。所々、実際にアプリケーションを立ち上げて、説明することがあり、お見苦しい点があるかもしれませんが、よろしくお願いいたします。



私は、けっして写真とか色彩だけが専門じゃなくて、かいつまんでお話する内容は、まず光と色彩です。それから知覚、写真画像、カラー印刷、カラー映像、絵画と、要するに色がモノクロの時代からカラーに移ってくると、人間やっぱり本能的にあるがままに見たいというのが本筋なんです。人間が、何かを見て、それに色が付いていれば、色があるように感じたいと、そういう欲望というものを持っています。今回お話しするのは、1840年代から1900年の始め、時代的にもものすごく充実しており、産業革命があり、工業的には電話、自動車、レコードが誕生し、キューリー夫人はラジウムを発見するは、1904年にアインシュタインが相対性理論を発表し、科学的にはエネルギー豊かな時代です。

色自体は、プラトンだとかソクラテスだとか昔からやっていますが、近年は、やはりアイザックニュートンだと思います。彼には、驚異の年というのがありまして、1665年と66年この二年間でニュートンの三大発明があり、万有引力、微積分法、それから今日のポイントである色です。色はいろんな色が集まって、よく虹の七色といいますが、白色光は、七色のいろんな色が集まったんだということをニュートンが説として唱えたわけです。もう一人挙げなければならないのは、文豪ゲーテ、ドイツを代表する詩人、劇作家、小説家、科学者、哲学者、政治家で、色についてニュートンと違った捉え方しています。

トーマスヤング1801年、三原色(赤、緑、青)、物理の弾性率、エジプト象形文字の解説。三原色理論、ヤング・ヘルムホルツ1852年に発表される。

タルボット1841年、モノクロ写真画像の初めはカロタイプで、1840年当たりから写

「色再現の歴史」

真は始まってきました。

ジェームス・マックスウェル1861年、イギリスの大物理学者で、ヤングが言った三原色で色が出せることを立証した。記録として残っている画像はタータンチェックのリボンが、世の中で初めて、色再現の理論に基づいて再現された投影式の画像です。

デュ・オーロン1869年、現代のカラープリント、カラー印刷の原点で、カーボン印画法を作り出した。モザイクスクリーン法1868年、小さくモザイクにして各色の要素だけを残して、乗算で重ねると色がでるんです、早い話がこれ現代のデジタルカメラです。

この後、ジョリ、ルミエール、フォーゲル、リーターナー等、偉大な先人達の色再現への工夫や功績のお話をして頂きました。我々は、ただその恩恵を受けているだけではないのかと、思いを新たにいたしました。

アイザック・ニュートン (英国/1642~1727)

「驚異の年」(1665年~1666年)
ニュートンの3大発明

- 万有引力の法則
運動の3法則と万有引力の法則
- 微積分法
曲線の接線の求め方(微分法)、曲線で囲まれた部分の面積の求め方(積分法)を開発し、それらが互いの逆演算であることも見つけた。
- 白色光は7色の集まり
光学(光の粒子論)
白色光がすべての色の混合であり、白色光はプリズムによっていろいろな色に分散でき、色によって屈折率が違うことを明らかにした。



Sir Isaac Newton

カラー写真の誕生

1861年5月17日、イギリスの物理学者ジェームス・マックスウェル(1831-1879)は赤、緑、青光画像を重ね合わせることでより最初のカラー画像の再現を行なう。公開実験ではガラスのボジを使用、この実験によりヤング・ヘルムホルツの3原色理論を裏付した。



James and Katherine Maxwell
1869年

マックスウェルの業績
気体分子運動論ではマックスウェルの速度分布則を導き気体の粘度から気体分子の平均自由行程を求めた(1860)。ファラデーの研究を引き継ぎ電磁場の概念を数学的に定式化したマックスウェルの方程式を導いた(1864)。マックスウェルの方程式で古典電磁気学の理論が完成した。また光が電磁波であることを理論的に明らかにした。この理論は電磁波の存在を暗示するものとして注目された。

金子良二 芸術学部教授のご略歴

1946年 横浜市生まれ
東京写真短期大学写真印刷科卒
東京理科大学理学部物理学科卒
工学博士
東京工芸大学芸術学部デザイン学科 教授。現在に至る研究としては主として『画像表現と視知覚』との関連制作としては東南アジア、南米における写真撮影著作「コンピュータで知る色彩と画像表現」

平成17年度会計報告

H17.6.1~H18.5.31

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
前年度繰越金	102,611	通信費	159,710
支部費	183,000	総会会場支払	180,550
総会費	191,000	交際費	3,150
新年会費	194,000	会議費	52,000
受取利息		雑費	66,520
寄贈	7,400	新年会会場支払	157,800
名簿広告費	10,000	次年度繰越金	68,281

合計 688,011

合計 688,011

平成18年6月22日

会計 倉橋正直 

監事 杉本卓也 

平成18年度予算案

収入の部		支出の部	
繰り越し金	68,281	通信費	150,000
支部費	200,000	交際費	50,000
名簿広告費	30,000	会議費	50,000
		雑費	80,000

会計 倉橋正直

議案審議

1. 17年度会計報告と監査報告(上記の通り)
2. 17年度活動計画の概要
 - (1) 支部会員に17年度総会等の報告書を作成し送付する。
 - (2) 「新年懇親会」を例年通り催す。(19年1月27日)
 - (3) 次年度総会を平成19年7月に催す。
 - (4) 定例役員会2回開催。(18年11月・19年3月)
3. 17年度 収支予算 (上記の通り)
4. 役員改選 (別記の通り)
5. 規約の改正

第7章 第20条を改正

現行= 「本会則は平成17年7月2日に改正し施行する」

改正= 「本会則は平成18年7月8日に改正し施行する」

東京工芸大学関西支部 新役員氏名

	役職名	期	氏名	備考
☆	1 支部長	42	駕田 毅	
	2 副支部長	42	駕田 毅	総務 兼任
	3 副支部長	40	倉橋 正直	会計
	4 副支部長	42	香川 進	企画
☆	5 副支部長	工 4	俣野 恒雄	広報
☆	6 副支部長	工 2	内田 英男	大阪地区長
	7 副支部長	39	山本 哲	総務・大阪地区4年制担当
	8 副支部長	47	大西 繁	滋賀地区長
	9 副支部長	29	山口 晃正	京都地区長
	10 副支部長	41	八田 洋征	兵庫地区長
	11 副支部長	38	本城 丈夫	奈良地区長
	12 副支部長	38	西本 洋	和歌山地区長
	13 監事	38	滝口 雅之	
☆	14 監事	工 8	谷野 彰	
☆	15 副地区長	39	安岡 賢治	京都地区
☆	16 副地区長	36	西尾 祐一	兵庫地区
☆	17 副地区長	30	安川 洋平	奈良地区
	18 広報委員	工16	小林 修一	
	19 同期委員	30	安川 洋平	兼任
	20 同期委員	31	森澤 嘉昭	印刷部会 会長
	21 同期委員	38	滝口 雅之	兼任
	22 同期委員	39	安岡 賢治	兼任
	23 同期委員	工 2	内田 英男	兼任
	24 同期委員	工16	小笠原 秀樹	
	25 同期委員	工25	鈴木 正一郎	
	26 職場委員	43	香川 進	兼任 FFGS
	27 職場委員	47	大西 繁	兼任 三菱製紙
	28 職場委員	工 4	俣野 恒雄	兼任 大阪府警察
	29 職場委員	工 2	長谷川 淳	ダイヤモンド
	30 職場委員	工 8	谷野 彰	兼任 コニカミノルタ
	31 職場委員	工12	伊東 正邦	大日本スクリーン
	32 職場委員	工23	酒井 大倫	モリサワ
	33 職場委員	工27	三橋 浩二	ダイコロ
	34 婦人部長	40	大泉 秀子	
☆	35 婦人副委員	38	村田 忍	
☆	36 婦人副委員	43	二見むつみ	

注：45役職 36名（9名兼任） ☆は新任 ★は再任

平成18年・総会出席者（30名）

来賓（2名） 東京工芸大学 芸術学部教務部長 阪川教授
東京工芸大学 芸術学部 金子教授

（滋賀県）（1名）

〈敬称略〉

47期 大西繁

（京都府）（2名）

山口晃正(29期) 外村陽二(35期)

（大阪府）（13名）

工藤 眞(31期) 南 博(33期) 滝口雅之(38期) 山本 哲(39期)

倉橋正直(40期) 駕田 毅(42期) 恵川邦雄(43期) 生田 勝(44期)

池田 勉(工2期) 俣野恒雄(工4期) 原 浩一(工21期)

小笠原秀樹(工16期) 三橋浩二(工27期)

（兵庫県）（7名）

山口譲一(工29期) 福岡武雄(30期)

松本一馬(30期) 森澤嘉昭(31期) 西尾祐一(36期) 小林修一(工16期)

鈴木正一郎(工25期)

（奈良県）（3名）

上田史郎(23期) 安川洋平(30期) 宇都宮和子(30期)

（和歌山県）（2名）

西本 洋(34期) 西岡 崇(60期)

物故者（平成17年6月～平成18年7月）ご冥福をお祈りします。

11期 故石黒太郎氏 享年91歳 H17.12.14.御逝去

15期 故山田 敦氏 享年88歳 H18.2.5御逝去

17期 故宮崎徳夫氏 享年86歳 H17.9.28.御逝去

永年勤続功労表彰に想う

『永年勤続功労表彰に想う』

31期 工藤 眞

この度は思いもよらない同窓会よりの感謝状を頂き戸惑いと感謝の気持ちで一杯です。

昭和31年卒業後一年間研修のため東京の写真館にて過ごし、32年に帰阪してより今日まで約50年、関西支部の同窓会活動に微力ながら御手伝いさせて頂けたことを我ながらよく勤まったことと思います。その間学校の制度も様々な変遷を見、同窓生の姿も変わってきましたが、関西支部の活動は同窓会本部が認める内容と継続性が保てたことにその時々到的確な判断と熱意で遂行された支部長各位のリーダーシップと諸先輩の力が在ってこそと思います。

大山先輩はじめ卒業後の職種や環境の違いがある中、多くの方々から楽しい雰囲気の中、人生について、仕事について、何かとご指導いただいたことで今日があると思います。

同窓会も又新しい支部長のもと英知と熱意でますます発展していくことを祈りつつお礼の言葉とします。

感謝状

31期 工藤 眞 殿

あなたは当支部役員として
永年に亘り多大な尽力をされ
その活動を通じ同窓会の発展
向上に大きく貢献されました
その功績は誠に顕著であり
よって此処に深く感謝の意を
表します

平成18年7月8日

東京工芸大学同窓会関西支部
支部長 松本一馬



『人生お一人様一回限り!!』 44期 生田 勝

昭和44年卒業後、初めて関西支部総会に出席させていただきました。

今年5月全くの奇遇にも過去の職場で親交のありました(前)松本支部長と再会し、本会への出席を奨められ、現状では場違いだと思ながらも37年振りに出席した不肖の卒業生でございます。

何分にも初めての出席ということで、総会後の懇親会では冒頭挨拶・乾杯に始まり更に中締めと2度までも諸先輩をさしおき、ご指名を承り恐縮した次第です。加えて、支部会報への出稿依頼まで受け、既刊分の先輩諸兄が寄稿されているような趣味や腕自慢できることもなく、更には写真・印刷等関連業界に身を置いている訳でもないのに、気軽に引き受けたものの、さて、何を書いて良いのやら…。

大多数の同窓生は大学に関する業界・各方面でご活躍されていることと思われませんが、中には私のように学んだことは生かせず全く異なる業界に身を置く卒業生もいるということを知っていただくため、今に至る略歴をご紹介します、これに変えさせていただきますことお許し願います。

それでも当初卒業後は関連業界の三菱製紙に入社、当時伸び盛りでありましたカラー写真の技術サービスに8年間携わりました。このまま勤務していれば、先輩諸兄共、親交を深められていたかも知れませんが、29歳の時に住宅営業という全く異業種のミサワホームに飛び込むこととなりました。ここでは運にも恵まれ、又、多少の営業的な素質があったのでしょうか支店長職にも就かせていただきました。

しかし、56才を迎えた一昨年再び同業界であります、縁あって神戸発のベンチャー企業として10年前に発足したオーシャンホームに身を転じ、現在は経営者の端で数年後の「株式公開」を夢みて、会社生活最後の花を咲かせたいと思っている今日この頃です。

現職では大学の勉強が殆ど生かしているとはいえませんが、家計が苦しい中、2年間大学に行かせてもらったこと、東京での10種類を超えるバイトで得た経験、何よりも、時に今でもお付き合い出来る先生方、仲間に出会えたことは、私の人生の中で有形無形の財産になっていることは間違いありません。

「人生お一人様一回限り!!」面白ろ可笑しく思い描いた人生を生きるという、昨今の私の人生感ですが年を追う毎に、利害関係なくお付き合い出来る友人・知人

を多く持つ必要性を痛感しております。こうした意味からも今後は同窓会にも積極的に参加し、皆様方と親交を深めさせていただければと思っております。

最後に誌面を飾る写真と言われましたが、これもカメラさえ手にすることも少なく、提出できるようなものはありませんが、10数年前、高校(大阪工芸高校)時代の仲間から同窓写真展を誘われた時に銘酹しながら撮影した、大阪、南(本当に良く通いました)のママさん達の写真と、現在の会社で扱っておりますデザイン住宅の写真を添付させていただきます。



『高齢化社会にお役立ち』 33期 南 博

ネガカラーフィルムが国内発売される前に、故穂積教授の測光研究室で、カラーセントメトリーを学ばさせていただきました。それがそのまま仕事になって、折からの高度成長期と、写真のカラー化の大波に乗って、お蔭様で恵まれた仕事人生でした。

四十歳のころ、子会社の一つを任されて、その経営ストレスと、不摂生がたまって、いまでいうメタボリックシンドローム、中年太り・高血圧・高血糖・高脂質症に悩まされて、太極拳に救いを求めました。

現役のころ、大阪へ2回転勤になり、その2回目に勝手に永住と決め込んで家を建て、ローンをシコシコ払っていた関係で、定年後大阪に来て九年経ちました。自分が太極拳で救われた喜びを少しでも広めようと思い、新聞社系のカルチャーセンターに講座を設けましたところ、その担当者の優れた企画と折からの健康ブームに乗ってどんどん教室が増えました。

指導者不足に迫られて、指導者養成講座を開き、育成に努めました。それが大阪府から認証され、NPO健康太極拳関西指導研究会として発足し、思ってもみなかった理事長になりました。このNPOは太極拳の指導者を養成し、各機関へ派遣し、また、自ら教室を運営する特定非営利活動法人で、税制上優遇され、信用度のうえでも助かっています。

現在の状況は、指導者27名、教室は派遣・自主運営・ボランティア併せて82教室、生徒数約1,000名といったところです。最近の傾向として、介護付老人ホームからの派遣要請が増えています。

生徒で多いのは、子育てを卒業して更年期障害で健康に目覚めたお母さん、コンピュータ業務でヘトヘトになっているOL、介護で心と身体(特に腰)を病んでいる従事者、定年後ひまを持って余して太り気味のお父さん等です。

細く長い呼吸とゆっくりした動きで気を養い、ストレスを解消し、冷え性・肩凝り・腰痛・膝痛・のぼせ・めまい・花粉症・肥満・高血圧・高血糖・高脂質・慢性的な内蔵疾患等がいつの間にか軽くなり、正常化し、3K(快食、快眠、快便)を取り戻し、顔ツヤが良くなり、背筋をスッキリと、転びにくく寝たきりになりにくい、PPK(ピンピンコロリ)を合言葉の楽しい教室だと、わりに評判をいただいております。

こうして、思いがけないご縁から、世界一の高齢化社会が抱える課題解決に、いささかなりとお役立ちしている喜びに、感謝しております。



『昔を気ままに想いだして…』 E-16期 小林修一

私は関西支部で広報を担当しております小林です。自己紹介のため、筆を執りました。思いつくままに書きますので乱筆をお許し願います。大学卒業は工学部16期画像工学科で、印刷研究会と学園祭実行委員会に所属しておりました。卒業後は東京品川の印刷製版会社と出版輪転機印刷の会社を経て、ダイコロ株式会社に就職しました。

年齢は43歳、昭和37年7月21日、兵庫県西宮甲子園の生まれで、寅年、蟹座、B型です。趣味は将棋、ボウリング、写真、ビリヤード、ゴルフなどです。今、一番よくやっているのが将棋で毎日、昼休みに頭の体操と思って研究しています。その次がビリヤードで、一人で最後まで突き切れず、ミスの連発ですが集中力がつきそうなので友達としています。ボーリングはマイボールでやるのですがどうしてもオープンフレームが3つくらい必ず出てしまいうまくなりません。ゴルフはコンペの一週間前に会社の先輩と打ちっ放しに行き、まぐれで優勝しました。写真は学生の頃から人物、風景を撮り、モノクロの印画紙に焼いたり、松本前支部長のお世話になった記憶もあります。卒業後はさっぱりで子供ができてから子供の写真を撮り、会社のコンテストで賞を頂きました。賞といえば、会社の社内柔道大会の団体戦で自分は弱かったのですが、何年かかけて金、銀、銅メダルを頂き、大変うれしかった事が思い出されます。

会社での仕事内容は学校アルバムの表紙関係の図案、製版を主にして、学校の卒業時期が近づくと製本の手伝いをしております。現在の印刷は平版が主流ですが、私が担当しております表紙は孔版の中のシルク印刷です。本屋さんでは滅多にお目にかかりませんが、印刷用紙以外の紙、布などに印刷でき、たいへん味のある印刷です。このシルク印刷は大学のクラブ活動でやっていましたので親しみがあります。その頃、思いだされるのが大学の先輩と東京神田までシルク印刷の感材、溶剤など

材料を買いに行った帰りの飲み屋でよく飲んで、よくつぶれて吐いたりしていた事です。ベビーオフセットや平版の手動校正機もありシルク印刷と多重印刷などして遊んで、Tシャツやコースターなどに印刷して学園祭の模擬店を設けたりしてました。また、学園祭実行委員会で、夜中まで準備に追われたり、OBの方々にお世話になったり、他の大学の学園祭実行委員会の方々とお友達になったりと色々あり、大変有意義な4年間だったと思います。

こうやって気のままに書いている内に色々な事が思いだされ、紙面に書き切れないうらいなのでこの辺で自己紹介を終わりたいと思います。どうもありがとうございました。今後ともよろしくお願い致します。



写真中央が筆者

平成18年9月

会員各位

東京工芸大学同窓会
関西支部長 駕田 毅

会費納入のお願い

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

皆様には、日頃支部運営に何かとご協力を賜り有難うございます。同窓会の活性充実を図るため、会員の皆様には支部活動の状況をお知らせし、一層のご理解を戴く事を念じまして、本年も18年度の会報を制作し、お届け致しました。お目通しの程よろしくお願ひします。

恒例の支部総会そして来る新年会は、会員各位の親睦・情報交換の場として、一層盛大になることを念じております。

つきましては、同窓会関西支部の18年度年会費のご協力をお願いする次第でございます。**次回の新年会、総会に初めて参加希望、参加予定の方も18年度会費のみで結構です**ので、万障繰り合わせの上ご参加頂きます様お願ひ申し上げます。

尚、18年度会費納入済みの方には会費請求の重複ご容赦下さい。

敬 具

記

- | | | |
|----------------------|---|--------|
| 1. 東京工芸大学同窓会
関西支部 | 18年度・年会費 | 3,000円 |
| 2. 会費振り込み先 | 東京工芸大学同窓会・関西支部
口座番号 南郵便局[00940-4-97724]
※ 同封の郵便振替用紙をご利用下さい。
(振込料は無料です) | |

このままでは支部運営に多大な影響を及ぼします。是非とも1名でも多く会費納入に御協力をお願い致します。

◇お問い合わせは会計担当・倉橋まで Tel 06-6761-6868

会計担当 倉橋正直

